

<b>授業科目名</b>	生活支援技術（Ⅰ）	<b>講師名</b>	麻生 理津子
<b>実施年次 ／時期</b>	1年次 後期	<b>時間数</b>	30時間
<b>概要</b>			
1. 生活がどのような側面から構成されているか理解する。 2. 生活支援の対象者や生活支援の考え方について理解する。 3. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> について理解する。			
<b>目標</b>			
1. <u>生活支援</u> の考え方について理解できる 2. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> について理解できる			
<b>内容</b>			
1. <u>生活支援</u> （1） 2. <u>生活支援</u> （2） 3. <u>生活支援</u> （3） 4. <u>生活支援</u> （4） 5. <u>生活支援</u> （5） 6. ICFの生活機能モデル 7. 高齢化の現状 8. 障がい者の状況・障害福祉サービス等の現状 9. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> （1） 10. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> （2） 11. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> （3） 12. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> （4） 13. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> （5） 14. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> （6） 15. 後期試験			
<b>教科書</b>	『生活支援技術Ⅰ』5巻（メヂカルフレンド社）		
<b>授業の形態</b>	講義		
<b>／方法</b>	／教科書と資料を併用。		
<b>評価方法</b>	筆記試験70%、レポートおよび授業参加度（態度など）30%で総合的に評価する。		
<b>その他の事項</b>	[実務経験のある教員による授業科目] 介護福祉士を取得後5年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後5年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義を行う。		
<b>介護福祉士教育に含むべき事項</b>	生活支援／自立に向けた居住環境の整備		

授業科目名	生活支援技術（Ⅱ）	講師名	村上 洋次
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	60 時間
<b>概要</b>			
利用者が年齢や障がい、介護度のいかんに関わらず、また、施設、在宅を問わず、安心して日々を過ごすためには、介護提供者の中核となる介護福祉士の技術が何よりも重要となる。			
<b>目標</b>			
1. 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得することができる 2. 演習で学んだことを振り返りながら、記録としてまとめる力も身につけることができる			
<b>内容</b>			
1. オリエンテーション・授業の進め方・演習時の心得 2. 環境の整備 寝具の衛生管理・意義と目的・介護の基本 3. リネン類のたたみ方 4. ベッドメイキング 2人方法 5. ベッドメイキング 1人方法 6. ベッドメイキング 1人方法（計測） 7. 演習記録の書き方・ベッドメイキング 1人方法（計測） 8. シーツ交換（利用者が臥床時） 9. <u>自立に向けた移動の介護</u> 意義と目的・介護の基本 10. 移動に関するアセスメント・移動の介助方法 11. 【実技試験】ベッドメイキング 1人方法 12. 体位変換（仰臥位・側臥位・移乗用具の活用） 13. 安楽な体位の保持・床からの立ち上がり 14. 車いすの介助・歩行介助・補助具の活用 15. 移動介助		16. <u>自立に向けた食事の介護</u> 意義と目的 介護の基本 17. 【小テスト】姿勢と体位・車いす、事故の予防と事故時の対応 18. 【実技試験】移動介助 19. 安全な食事介助・状態別食事介助・事故時の対応 20. 自立に向けた口腔のケア・意義と目的・介護の基本 21. 状態別口腔ケア 22. <u>自立に向けた身じたくの介護</u> 意義と目的 介護の基本 身じたくに関するアセスメント 23. 着脱介助「右片麻痺」（座位での全介助・一部介助） 24. 着脱介助・移動介助 25. 着脱介助「右片麻痺」（仰臥位での全介助・一部介助） 26. 【実技試験】着脱介助・移動介助 27. 【グループワーク】事例から介助方法を考える 28. 【グループワーク】グループ別の発表 29. 予備 30. 試験	
<b>教科書</b> 最新介護福祉全書5『生活支援技術Ⅰ 基本編』（メヂカルフレンド社）			
<b>授業の形態</b> 講義、演習			
<b>／方法</b> ／教科書を基にした講義、演習を行う			
<b>評価方法</b> 授業態度 10%、実技試験 35%、小テスト 10%、演習記録の提出状況 10%、期末試験 35%			
<b>その他の事項</b> [実務経験のある教員による授業科目] 介護福祉士を取得後5年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後5年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義および演習を行う。			
<b>介護福祉士教育に含むべき事項</b> 自立にむけた身じたくの介護／自立に向けた移動の介護 ／自立に向けた食事の介護			

<b>授業科目名</b>	生活支援技術（Ⅲ）	<b>講師名</b>	村上 洋次
<b>実施年次 ／時期</b>	1年次 後期	<b>時間数</b>	30時間
<b>概要</b>			
利用者が年齢や障がい、介護度のいかんに関わらず、また、施設、在宅を問わず、安心して日々を過ごすためには、介護提供者の中核となる介護福祉士の技術が何よりも重要となる。			
<b>目標</b>			
1. 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得することができる			
2. 演習で学んだことを振り返りながら、記録としてまとめる力も身につけることができる			
<b>内容</b>			
1. <u>自立に向けた入浴・清潔保持の介護</u> 意義と目的 介護の基本・オムツ体験演習			
2. 入浴・清潔保持に関するアセスメント			
3. 演習 リフト浴			
4. 演習 特浴			
5. 演習 全身清拭			
6. 演習 部分浴・爪の手入れ			
7. <u>自立に向けた排泄介護</u> 意義と目的 介護の基本 排泄に関するアセスメント			
8. 演習 オムツ交換・便器・尿器での介助 【小テスト】排泄について			
9. 演習 ポータブルトイレでの介助・トイレでのオムツの着脱介助			
10. <u>自立に向けた睡眠の介護</u> 意義と目的 介護の基本			
11. 【実技試験】ベッドからポータブルトイレへの介助			
12. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> 意義と目的 介護の基本			
13. 【グループワーク】居住環境について			
14. 【グループワーク】生活空間にある危険予知事例			
15. 試験			
<b>教科書</b> ①最新介護福祉全書5『生活支援技術Ⅰ 基本編』（メヂカルフレンド社） ②最新介護福祉全書6『生活支援技術Ⅱ』（メヂカルフレンド社）			
<b>授業の形態</b> 講義、演習			
<b>／方法</b> 教科書を基にした講義、演習を行う			
<b>評価方法</b> 授業態度 10%、実技試験 35%、小テスト 10%、演習記録の提出状況 10%、期末試験 35%			
<b>その他の事項</b> [実務経験のある教員による授業科目] 介護福祉士を取得後 5 年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後 5 年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義および演習を行う。			
<b>介護福祉士教育に含むべき事項</b> 自立にむけた入浴・清潔保持の介護／自立に向けた排泄介護 ／自立に向けた睡眠の介護／自立に向けた居住環境の整備			

<b>授業科目名</b>	生活支援技術 (IV)	<b>講師名</b>	麻生 理津子
<b>実施年次 ／時期</b>	1年次 後期	<b>時間数</b>	30 時間
<b>概要</b>	<p>「高次脳機能障害」「認知症」「難病」「全介助を要する人」それぞれ特徴と症状を学び、その生活困難を理解する。</p> <p>各障害に応じた生活支援技術のアセスメントをする必要性を学ぶ。各障害に応じた、<u>自立に向けた食事の介護</u>、<u>自立に向けた排泄の介護</u>、<u>自立に向けた居住環境の整備</u>、<u>自立に向けた身じたくの介護</u>、<u>自立に向けた睡眠の介護</u>の方法を学ぶ。</p>		
<b>目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高次脳機能障害を認める人に対する自立に向けた介護について、事例を通し理解できる</li> <li>2. 認知症の人に対する自立に向けた介護について、事例を通し理解できる</li> <li>3. 難病の人、全介助を要する人について理解できる</li> <li>4. 全介助を要する人に対する自立に向けた介護について、事例を通し理解できる</li> </ol>		
<b>内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高次脳機能障害の人の症状の理解</li> <li>2. 高次脳機能障害の人の生活困難を考える</li> <li>3. 高次脳機能障害の人の生活支援技術の原則</li> <li>4. 高次脳機能障害の症状に応じた生活支援技術の方法を考える①</li> <li>5. 高次脳機能障害の症状に応じた生活支援技術の方法を考える②</li> <li>6. 認知症の人の症状の理解</li> <li>7. 認知症の人の生活困難を考える</li> <li>8. 認知症の症状から生活支援技術の方法を考える①</li> <li>9. 認知症の症状から生活支援技術の方法を考える②</li> <li>10. 「難病の人」「全介助を要する人」の理解と生活支援の方法と原則</li> <li>12. 全介助を要する人の生活支援技術 (演習)</li> <li>13. 全介助を要する人の自立に向けた生活支援技術を考える (演習)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. テスト</li> </ol>		
<b>教科書</b>	最新介護福祉全書 別巻4『障害別生活支援技術』(メヂカルフレンド社)		
<b>授業の形態</b>	講義、演習		
<b>／方法</b>	<p>／教科書を中心として講義を行い、事例学習ではワークシートを使用する。</p> <p>事例学習ではグループワーク、演習では介護実習室において生活支援技術演習を実施する。</p>		
<b>評価方法</b>	テスト 80%、授業態度 10%、ワークシート記入内容及び提出状況 10%での総合評価		
<b>その他の事項</b>	<p>[実務経験のある教員による授業科目]</p> <p>介護福祉士を取得後 5 年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後 5 年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義を行う。</p>		
<b>介護福祉士教育に含むべき事項</b>	自立に向けた食事の介護／自立に向けた排泄の介護／自立に向けた居住環境の整備／自立に向けた身じたくの介護／自立に向けた睡眠の介護		

<b>授業科目名</b>	生活支援技術 (VI)	<b>講師名</b>	麻生 理津子
<b>実施年次 ／時期</b>	2年次 後期	<b>時間数</b>	30 時間
<b>概要</b>			
<p>1. 内部障害の定義、分類、症状について正しく理解する。</p> <p>2. 心臓、呼吸器、腎臓、排泄器官（膀胱・直腸）、小腸、肝臓のそれぞれの機能障害のある人について、<u>生活支援</u>の基本を理解する。</p> <p>3. 心臓、呼吸器、腎臓、排泄器官（膀胱・直腸）、小腸、肝臓のそれぞれの機能障害のある人とのコミュニケーションの方法・注意点とアセスメントの視点を理解する。</p> <p>4. 医療ニーズの高い対象者を想定し、具体的な疾病名と生活場面ごとにその対応方法を理解する。</p>			
<b>目標</b>			
<p>1. 内部障害のある人の医学的・心理的観点から理解できる</p> <p>2. 内部障害のある人の<u>生活支援</u>を理解できる</p>			
<b>内容</b>			
<p>1. 内部障害とは、内部障害者の<u>生活支援</u>の実際</p> <p>2. 心臓機能障害のある人の医学的理解と心理的理解</p> <p>3. 心臓機能障害のある人の<u>生活支援</u></p> <p>4. 呼吸機能障害のある人の医学的理解と心理的理解</p> <p>5. 呼吸機能障害のある人の<u>生活支援</u></p> <p>6. 腎臓機能障害のある人の医学的理解と心理的理解</p> <p>7. 腎臓機能障害のある人の<u>生活支援</u>（1）</p> <p>8. 腎臓機能障害のある人の<u>生活支援</u>（2）</p> <p>9. 膀胱・直腸機能障害のある人の医学的理解と心理的理解</p> <p>10. 膀胱・直腸機能障害のある人の<u>生活支援</u>（1）</p> <p>11. 膀胱・直腸機能障害のある人の<u>生活支援</u>（2）</p> <p>12. 小腸機能障害のある人の医学的理解と心理的理解、<u>生活支援</u></p> <p>13. 肝臓機能障害のある人の医学的理解と心理的理解、<u>生活支援</u></p> <p>14. 模擬問題</p> <p>15. 後期試験</p>			
<b>教科書</b>	『障害別生活支援技術』別巻4（メヂカルフレンド社）		
<b>授業の形態</b>	講義		
<b>／方法</b>	／教科書と資料を併用。		
<b>評価方法</b>	筆記試験 80%、授業参加度（態度など）20%で総合的に評価する。		
<b>その他の事項</b>	<p>[実務経験のある教員による授業科目]</p> <p>介護福祉士を取得後 5 年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後 5 年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義を行う。</p>		
<b>介護福祉士教育に含むべき事項</b>	生活支援		